



♣グリーン電力出資金出資者
♣グリーンコープでんき利用者 の皆様

グリーンコープでんき通信 VOL.19



2019年1月28日発行
一般社団法人グリーン・市民電力

脱原発社会
へ向けて

「グリーンコープでんき」 「原発フリー」を実現!!

今から33年前に起こったチェルノブイリ原発事故以降、グリーンコープは「原発のない社会」の実現をめざし地道に運動を続けてきました。到達までにはまだまだ時間がかかりそうですが、このたび、「グリーンコープでんき」の電源を「原発フリー」と特定できたことは、私たちがめざす脱原発社会実現へ向けた大きな一歩だと言えます。

ライフラインの一つである電気は、国の政策やエネルギー基本計画、大手電力会社の施行等の下で「発電・送電・小売」が行われており、グリーンコープ独自で取り組むには限界があります。そんな中で、2012年からの発電所づくり、2016年からの「グリーンコープでんき」の小売事業開始など、できることから一つひとつ形にしてきました。「グリーンコープでんき」スタートの際は、「原発フリー」を実現するまでには至らず、「原発フリーをめざす」と表現してきました。そして、今回、名実ともに「原発フリー」と言えるようになりました。その道のりをたどってみます。

① 脱原発社会をめざして、2012年自然エネルギーによる発電所づくり始まる

- ・第一弾は神在太陽光発電所(福岡県糸島市)。その後、山口、兵庫、宮崎、熊本へと広がった。
- ・現在、約3800世帯分の電気を賄えるまでになった。

② 「グリーンコープでんき」供給スタート時は、「原発フリーをめざす」としか言えなかった

- ・一般に、電源を安定的に確保するためには、たとえ使わなくても大手電力会社の「常時バックアップ電力」を契約しておく必要があった。
- ※原発が再稼働している九州電力の常時バックアップには原発の電気が入っていることになる。

③ 2018年10月、間接オークション導入に合わせて電源が特定できるようになり、「原発フリー」が実現!

- ・特定できた電源は、主に清掃工場で発電される電気。清掃工場の発電は、その約半分がバイオマス発電に分類される。
- ・加えて、馬洗瀬小水力発電所(昨年11月から)と杖立温泉熱バイナリー発電所(今年2月から)の電気がグリーンコープでんきに組み込まれる。

④ 2016年、電力自由化を受けて、「グリーンコープでんき」の小売事業がスタート

- ・2016年7月GCふくおかの実験展開からスタート。
- ・2017年4月からグリーンコープ全エリアで展開
- ※グリーン・市民電力は、丸紅新電力のバラシンググループに参加して事業展開することになった

⑤ 「原発フリー」を追求して、丸紅新電力と協議を進めてきた

- ・丸紅新電力の配慮により、大手電力会社の常時バックアップ電力の契約を辞め、市場の卸電力取引所の電力も使わない、「原発フリー」電源からの供給が可能になっていた。
- ・しかし、まだ「原発フリー」としての電源を特定できるまでは至らなかった。

グリーンコープでんきは「原発フリー」だよ!



「原発フリー」をめざす“グリーンコープでんき”。それなのに、大手電力会社に支払う「託送料金（電線使用料）」には、原発に使われる費用が含まれています。それは不自然でおかしくないかと考え、九州電力にどうしてそうなるのか、お尋ねしています。 《その18》

2020年4月から、託送料金の中に、原発のための新たな負担金として、「賠償負担金」「廃炉円滑化負担金」という2つが新たに転嫁されることが、経済産業省内で決められようとしています。

＜シリーズ第12回＞

前号までに記した様々な事柄について昨年6月4日に経済産業省からきちんと回答が来ました。それを読んで、6月26日にもう一度お問い合わせをしました。この回答は少し分遅くなって12月に届きました。今号から、その内容を案内していきます。

一番根元の「託送料金は、電気事業法上、送配電網の維持・管理にかかる費用などに加え、ユニバーサル料金など、全ての消費者が広く公平に負担すべき費用を含めることが出来る制度となっている」という考え方について

（一）最初（2018年3月）にお問い合わせした内容

「託送料金は、電気事業法上、送配電網の維持・管理にかかる費用などに加え、ユニバーサル料金など、全ての消費者が広く公平に負担すべき費用を含めることが出来る制度となっている」と言える電気事業法上の根拠規定は何ですか。

（二）2018年6月に回答いただいた内容

現行の託送料金に関する電気事業法の規定は、2000年に電力小売を部分的に自由化した際に設けられたが、当時の審議会報告書において、公益的課題への対応に必要な負担は「すべての需要家が公平に負うことを原則とする」という結論に至ったことを踏まえたもの。審議会における議論でこの結論に至った。

（三）これを読んで改めてお問い合わせしたのは5点です。

【質問1】「電気事業法上の根拠規定は何なのか」について、具体的な条項は無いと理解して良いのですか。

【質問2】「審議会」は、2000年のものと今回の2016年9月から2017年2月までのものと、2つを指していると思われます。後者は『電力システム改革貫徹のための政策小委員会』と理解していますが、間違いありませんか。

【質問3】「2000年当時の審議会報告書」とは何を指していますか。

【質問4】もし経済産業省のホームページ等で見ることができれば、表題を教えてくださいませんか。

【質問5】それができないならば、その「報告書」を開示いただけますか。

（四）経済産業省から昨年12月28日に回答が届けられました。

①「一般送配電事業者の託送供給約款の認可については、電気事業法第18条

において定められております。」

- ②「賠償負担金と廃炉円滑化負担金については、電気事業法に基づき、電気事業法施行規則等の一部を改正する省令（経済産業省令第七十七号）において、必要な措置を講じています。」というのがその内容でした。

(五) その回答に対して、さらなる熟読・考察が必要ですが、以下のように考えます。

- ①同法第18条は、

「1. 一般送配電事業者は託送供給約款を定め大臣の認可を受けること。2. 約款によりがたい特別の事情があるときは大臣の認可を受けた料金にすることができること。3. 大臣は記載する各号に適合する時は認可をしなければならないこと。(中略) 7. 他の法律の規定により支払うべき費用額の増加に対するものとして省令で定める場合は、料金その他条件を変更できること。8. 前項により条件を変更するときは大臣に届け出ること」という内容です。これが「電気事業法上、ユニバーサル料金など国民が広く公平に負担すべき費用を託送料金に含めることができる」を説明する根拠条項であるとは考えられません。①は答えとしておかしいと思います。

また、②について、仮にこれが電気事業法第18条第7項の適用を意味するとすれば、前提となる「他の法律の規定により」ということが欠落しています。

(六) 以上のことから考えられるのは、以下のとおりです。

「電気事業法上、賠償負担金や廃炉円滑化負担金を託送料金に含めることがで

きる」というのは根拠のない説明と考えられることから、私たちは本年1月10日に経済産業大臣にあてて、『陳情書—2020年4月から託送料金中に新たに「賠償負担金」「廃炉円滑化負担金」という原子力発電由来の2つの負担金を上乗せするのを止めてください。また、託送料金を本来定められた姿である「電線使用料（送配電網の維持に係る費用に対するもの）とするべく見直しを行ってください』を届けることにしました。

2019年1月10日

経済産業省
経済産業大臣 世耕弘成様

陳情書に関するお願い

一般社団法人グリーン・市民電力
代表理事熊野千恵美

謹啓 厳寒の砌、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

まず、私たちが昨年6月26日付でお届けしました『お問い合わせ』につきまして、昨年12月28日に『回答』をいただいたことに、心よりお礼を申し上げます。

それを拝読して、今般、別紙のとおり『陳情書』を作成し、貴職にお届けをいたします。ご検討をよろしく申し上げます。

また、過去の経緯に照らして(昨年12月3日付小信『誠実かつすみやかに回答をお届けいただけることをお待ちしております。』及び12月18日付小信『苦情』)、『陳情書』に対応されなかったり、そうでないとしても引き延ばしの対応となる事態を避けてくださるよう、申し上げます。

そうしたことのためにも、早い時期に、貴職として責任を負える方と私たちの話し合いの場を設けることを申し上げます。私たちが『陳情書』の説明をさせていただき、貴職からも必要な説明がございましたらそれを言っていたきたいと思います。話し合いの場については、遅くとも2月に持っていただけることを希望します。すでに貴職が決めたとされる新たな2つの負担金が託送料金に上乗せされるまでに1年とちょっとの時間しか残されていません。

以上のご検討をお願いします。そして、まず話し合いの場を設けることの可否について、2月8日までに書面にて回答をお願いします。

なお、この問題はとても大切な問題と思われまふ。これから先、私たちだけでなく、多くの方々にも考えてもらいたく、社会的な発信をしていきたいと考えています。ご承知のほどをお願いいたします。

謹白



次号につづく

■グリーンコープでんき

- グリーンコープでんきの契約数は、12月28日現在、GC事業所やGC商品のお取引先も含め下表のとおりです。(※供給開始前含む)

| 単協 | 契約件数 | 契約容量(kW) |
|-----------|-------|----------|
| GC生協おおさか | 52 | 225 |
| GC生協ひょうご | 32 | 160 |
| GC生協とっとり | 41 | 185 |
| GC生協(島根) | 72 | 312 |
| GC生協おかやま | 77 | 308 |
| GC生協ひろしま | 102 | 447 |
| GCやまぐち生協 | 559 | 2,353 |
| GC生協ふくおか | 1,938 | 8,057 |
| GC生協さが | 109 | 571 |
| GC生協(長崎) | 143 | 626 |
| GC生協くまもと | 496 | 2,351 |
| GC生協おおいた | 281 | 1,167 |
| GC生協みやざき | 132 | 481 |
| GCかごしま生協 | 214 | 906 |
| 事業所向け(低圧) | 23 | 131 |
| 事業所向け(高圧) | 57 | 4,300 |
| 合計 | 4,330 | 22,580 |

■12月にお届けした電気の電源は以下のとおりでした。

【関西電力エリア】

- 清掃工場C(兵庫県、燃料：一般ごみ)の電気100%でした。

【中国電力エリア】

- 清掃工場A(大阪府、燃料：一般ごみ)、清掃工場B(大阪府、燃料：一般ごみ)、清掃工場D(島根県、燃料：一般ごみ)で発電した電気でした。

【九州電力エリア】

- 清掃工場E(福岡県、燃料：一般ごみ)、清掃工場F(鹿児島県、燃料：一般ごみ)で発電した電気に加え、熊本県小国にある馬洗瀬小水力発電所の電気(14,880kWh)が電源として加わりました。約45世帯分の電気に相当します。

★いずれのエリアにおいても、原子力発電所由来の電気は、グリーンコープでんきの電源には一切含まれていません。

■2月から杖立温泉熱バイナリー発電所の電気が電源に加わります。

- 2018年8月、熊本県杖立温泉の温泉街の郵便局隣に「杖立温泉熱バイナリー発電所」が稼働しました。
- 2月1日から、この発電所の電気も「グリーンコープでんき」の電源に組み込まれます。
- 一歩ずつ着実に取り組みが進んでいます。

■市民発電所

- グリーン・市民電力の発電所の2018年4月から10月までの実績です。今回、広島物流センターの発電が停止しています。これは、昨年9月末の台風により発電設備が全損したため、復旧は今年2月の予定です。

| 発電所 | 出力(kW) | 発電量(kWh) | 売電額(円) |
|-----------------|--------|-----------|-------------|
| 神在太陽光発電所 | 1,057 | 903,460 | 36,138,400 |
| 平池水上太陽光発電所 | 1,260 | 1,063,631 | 38,290,709 |
| 深年太陽光発電所 | 1,550 | 1,246,568 | 44,876,460 |
| 若宮物流センター | 47 | 35,403 | 1,309,911 |
| 広島物流センター | 47 | 32,469 | 1,201,353 |
| やまぐち西部地域本部 | 54 | 46,073 | 1,520,409 |
| グリーン未来ソーラ(10箇所) | 244 | 171,190 | 3,594,983 |
| 合計 | 4,259 | 3,498,794 | 126,932,224 |

■グリーン電力出資金

- 皆さんから出資いただいたグリーン電力出資金の総額(実際に振り込んでいただいた額)は、8億7,727万円になっています。
- 出資目標額(積み立て目標額)は、12月22日現在で11億1,466万円になりました。

| 生協名 | 申込人数 | 申込件数 | 出資目標額 |
|----------|--------|--------|---------------|
| GC生協おおさか | 222 | 249 | 18,050,000 |
| GC生協ひょうご | 102 | 122 | 8,616,000 |
| GC生協とっとり | 136 | 148 | 10,850,000 |
| GC(島根) | 222 | 228 | 11,620,000 |
| GC生協おかやま | 156 | 171 | 12,050,000 |
| GC生協ひろしま | 669 | 769 | 74,505,000 |
| GCやまぐち生協 | 600 | 689 | 44,290,000 |
| GC生協ふくおか | 5,564 | 6,421 | 535,927,000 |
| GC生協さが | 328 | 366 | 44,565,000 |
| GC生協(長崎) | 581 | 638 | 56,453,000 |
| GC生協くまもと | 1,502 | 1,697 | 124,939,000 |
| GC生協おおいた | 797 | 880 | 70,274,000 |
| GC生協みやざき | 300 | 334 | 27,735,000 |
| GCかごしま生協 | 702 | 770 | 74,782,000 |
| 合計 | 11,881 | 13,482 | 1,114,656,000 |

- グリーン電力出資金は、市民発電所の建設費用などの一部に充てています。
- 2018年12月末支出総額は8億7,727万円で、残高は2,845万円になっています。
- 市民発電所の建設は、継続して調査や検討をすすめています。今後ともグリーン電力出資へのご参加をよろしくお願いいたします。

| | |
|--|-------------|
| これまで出資いただいた金額 | 877,265,000 |
| これまで支出した事業と金額 | 848,810,221 |
| 神在太陽光発電所、平池水上太陽光発電所、深年太陽光発電所、若宮物流センター、広島物流センター、やまぐち西部地域本部、グリーン未来ソーラ発電所、豊浦太陽光発電所、馬洗瀬小水力発電所、杖立温泉熱バイナリー発電所、ながわ小水力発電所(建設中)、しましま小水力発電所(準備中)、霧島太陽光発電所(準備中)、熊本菊池太陽光発電所、国東第二自然電力太陽光発電所 | |
| グリーン電力出資金の残高 | 28,454,779 |